

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570408575		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームかみやま		
所在地	大館市花岡町字前田162番39		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に合った入浴方法(一般浴と個室で対応している)</li> <li>・季節合った行事を行っている。</li> <li>・地域との交流(夏祭り・運動会・避難訓練など)</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の状態変化に応じて、食事や入浴の形態を検討され、有する能力を活かしながら、安全に過ごせるよう支援している。地域に同法人のバックアップ施設があり、福祉車両でみんなで出掛けることができる。地域の行事等外出の機会は多く、地域と密着した生活の継続に努めている。日々の気付きから、職員皆で確認、検討し、統一した方向性での実践の流れが確立できている。それはモニタリング、計画書の流れにも活かされている。職員の支援技術向上のため、1年間の研修プログラムが実践され、実態に即した研修が行われている。職員の休憩時間や夜勤補助を含めた夜勤の3人体制など労務管理もしっかりされており、職員が安心して仕事ができる環境であり、職員の定着につながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で自分らしい生活ができるよう支援している。	『家庭的な環境において家族との絆を大切に地域住民と交流を図りながら、自分らしい豊かな生活ができるよう支援する』を理念に掲げている。その理念を念頭において、毎月のカンファレンスや委員会活動の中で話し合い、共有している。日々意識して、生活の場が家からホームに移ったと捉え、利用者一人ひとりの有する能力を活かしながら継続的な生活ができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・散髪の際は、地域の理容店を利用している。 ・避難訓練の際、町内地域住民や近くの会社の社員さんの協力あり。	地域の祭りや公民館行事、近隣の保育園との交流により地域とのつながりを持っている。以前より同地区に法人の他施設もあることから、地域の信頼は得ており、事業所への理解もある。広報を配布し、地域の事業所、地域住民としてPRしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	全員での参加とはいきませんが地域の祭りや花火を見学したり、地域住民を交えて夏祭り(盆踊り)を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回奇数月に行っている。運営推進会議で利用者さんの状況や行事報告ができています。意見交換などでサービスの向上に努めている。	地域住民、利用者家族、知見を有する者、施設のバックアップ担当者、包括など多角的な視点から課題等検討され、利用者の生活向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員に市の職員も入っており、情報提供を受けたりと話し合いの場を設けている。	権利擁護制度を活用している利用者もおり、市の担当職員を含め、日々、市との連携を深めている。また、包括支援センターの職員等、情報を共有し問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出される方、おむつ外しをされる方などおりましたが身体拘束をしないケアに取り組んでいます。(玄関や非常口のセンサーを切らないなど)	玄関や非常口にセンサーを設置し、利用者の安全を図りながらも行動を抑制することなく対応をしている。法人に身体拘束委員会を設置し、身体拘束のない支援を実践している。学習会を通して職員へ理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神山荘身体拘束廃止ガイドラインに基づき取り組んでいる。玄関には人感チャイムを設置し施錠は行っていない。夜間転倒の危険がある可能性のある方には音が鳴り知らせしてくれるセンサーマットを設置し随時訪室対応し身体拘束をしないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などにより学ぶ機会があった際は、記録を回覧し、他職員に伝達している。当施設にもそのような立場(身元引受人)の方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットを持参し事前説明を兼ねた面談を行い契約書・重要事項説明書などの書類に納得していただいたうえで署名・捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見ポストを入りに設置し、アンケートに意見を記入できるようにしている。</li> <li>・家族法流会を実施。</li> <li>・年に2回利用者茶話会うい実施し、日常生活について意見を伺う機会を設けている。</li> </ul>	担当が毎月家族に近況報告の手紙を書くなど信頼関係の構築を図っており、面会時や敬老会、茶話会など家族参加の行事にて直接意見など聴取している。また、無記名のアンケートを実施し表出しにくい意見も汲み取れるよう配慮している。意見や要望については職員全員で話し合い、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し合いを持っている。職員会議や委員会、日常生活の中で意見を述べる機会がある。	職員会議や委員会活動、申し送りの全体ノート、日々の業務の中で、意見や要望を聞く機会がある。現場の意見を大事に捉え、一緒に話し合いながら実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務管理については、常に声掛けしており、浸透されている。必要のない書類や動きを中止するなど見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数名ずつではあるが、研修に参加して資格を取得できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加するなどして他施設の職員との情報交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。年に1回、法人合同研修会もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に感じていることや帰宅要求などに対して傾聴することで落ち着かれることが多いため、本人の立場になって声掛けをするなど。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月、月初めに担当職員から状況を記したお手紙を家族へ送って知らせている。通院後の報告などで必要時は、すぐに電話で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事仕事や掃除を行うなど、生活をしていく中で職員はお手伝いをさせていただいていると考えている。個々の状況に合わせた支援を対応しコミュニケーションを図りながらと努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	父の日や母の日に家族さんからもらう手紙やホームへの面会・家族参加型の行事など。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に家族の写真を置くなど(昔の自分の写真やアルバムなど)なじみの理容館や商店に出かけ職員が付き添い出かけ関係を継続できるよう支援している。また皆で誕生日を祝うなど。	昔からの馴染みの商店や理容館に外出するなど、これまでの関係性の継続に努めている。また、家族の協力を得て、定期的な外出やお盆に一時帰省され墓参りする利用者もいる。一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が理解できず、話が成立しなく困っている時などは、職員が間に入り、トラブル防止に努める。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	バックアップ施設である特養へ入所された方は行事で面会するなど。家人も参加される行事では声をかけ挨拶をさせていただくなど。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年に2回「茶話会」と称して利用者様から日頃の生活について要望・希望を問う機会を設けている。	意思疎通が困難な利用者にも話し掛け、傾聴の姿勢で接している。同じ話しを繰り返す利用者に対しても、初めて聞いた話のように対応し、プライドを傷付けないようにしている。利用者に声を掛けること、利用者の話をよく聞くこと、サインに気付くことを心掛け、ご家族の意見も聞きながら、思いや意向を汲み取るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の際聞き取りをした際に確認する場合もあるが、居室には自宅で使用していたベットや座椅子などを置くなど。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態をよく観察し、毎日の申し送りで報告、話し合い、記録し対応している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人からの希望と本人からの希望(確認できる方)を聞き作成している。家人へも介護計画ができ次第、説明し同意書に記入捺印していただき家人へも渡している。	職員それぞれが利用者を担当割りし、ケース記録も介護計画に沿った内容となっている。定期的なモニタリングにて、課題やケアのあり方を見直している。利用者や家族の意見を尊重しながら、話し合い作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に記入し記録を残す。ケアプランに沿ったまとめを毎月行い、また4か月に1回、介護計画に対するモニタリングを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域協力隊の協力がある。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれに主治医がおり、かかりつけ歯科・薬局もほぼ統一している。	基本的にホームで通院の対応をされており、随時家族に報告し、利用者の体調について共有している。利用者の希望により、かかりつけ医の継続や地域の医療機関の継続も可能である。また、主治医による予防接種などは、訪問により接種可能である。かかりつけ薬局ともコミュニケーションがとれており、配達してくれる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、主治医と連携を取りながら定期通院以外にも必要時には受診するなど対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、主に家人と病院の情報交換となるが病院からの連絡事はホームへも入れてくれるよう家人へお願いしている。また、定期的に見舞い状況確認している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の利用契約書の書類を説明し記入していただく物があり本人、家族の意向を確認している。	グループホームのビジョンが明確であり、看取りは行わない方針である。契約時及び随時、家族に説明、話し合いをしている。療養型病棟のある主治医や同法人の特別養護老人ホームもあり、包括・居宅・市などと連携を図り、空白の時間を作らないよう安心して状況変化に対応できるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会、施設内学習会などに参加している。(経験のない職員を優先的に)また時機を見ながら感染症対応など定期的にシミュレーションを行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。また年に2回、地域住民の方にも参加していただき協力体制を築いている。	年2回の総合避難訓練の他、駆け付け訓練も行っている。火災及び地震など想定される訓練を実施している。継続した反復訓練により職員は動きを身に付けている。備蓄や各居室ドア付近に検索ライトの設置、不審者対策には、駐車場に防犯カメラを設置して、利用者の安全を図るための環境等を整備している。地域住民、近隣の会社などの協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	暮らしていく中で利用者様の家庭の状況など知り得た事は、外部に漏らさない。また馴れ合いの声掛けやあだ名など呼び名に注意している。	利用者の気持ちに配慮した言葉かけや対応をしている。会議などで日々の対応を振り返り具体的に確認する機会があり、学習会を通して定期的に学んでいる。また、実習生に対してもプライバシーについて説明し、対応して頂いている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日はホーム周辺の散歩をするなど希望時は対応している。また「茶話会」で聞いた本人の要望・希望に沿った支援ができるよう心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで動くのではなく、家庭的な暮らしができるように利用者様のペースに合わせることを常日頃、心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の床屋さんを利用し、定期的に散髪している。女性の方は、家人の協力を得てパーマをかけるなどもある。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル・お盆拭きなどできる利用者さんと職員と一緒にやっている。誕生日にはケーキを提供している。	同法人の管理栄養士による献立、食事が提供されている。栄養管理されており、利用者にあった調理方法、彩りが食べる楽しみにつながっている。異食や食事の介助など利用者の重度化に伴い、利用者の安全を第一としている。ただし、汁物や簡単な調理はホームで行なっており、利用者に関わることができる。また、利用者からの希望を伝え、献立に組み込んでもらったり、おやつ作りや買い物、外食などでそれぞれが好みの物を摂ることができる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂りたがらない方(特にお茶)に対しては、温め直したり、声がけを工夫して提供し進めている。(例えば家族さんが持ってきてくれたなど)健康状態や病気を把握し応じた量や形態で提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様によってだがブラッシングできない方には、モンダミンを使用して口腔ケアを行っている方もいる。定期的に義歯洗浄剤を使用している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が無くトイレで排泄を促すため、定時でトイレ誘導を行っている。(2~3時間おき)排泄チェック表を付けている。必要時は介助している。	排泄チェック表を利用し、尿意を訴えることのできない利用者でも定時で誘導し、トイレ排泄できるよう支援している。また一人ひとりにあった排泄用具を検討している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便-3日目で申し送っており、乳製品や排便を促すお茶の提供など下剤以外の対応をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々に合ったお風呂で対応しており、車椅子で歩行困難な方には個浴槽を使用していただいている。(入浴できない日がないよう曜日は決めている)	一般浴、個浴槽があり、状態により利用者が安心安全に入浴できるよう支援している。週2回入浴できるよう曜日は決めているが、個別の要望にも対応できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・前日、あまり眠れなかった方には、次の日の日中に静養時間を設ける。 ・その方に合った環境を整える。(布団、ベッド、ポータブルトイレ等)		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変わったり、副作用のある薬に関しては、一週間様子を見て報告(申し送り)している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事仕事が好きな利用者様には衣類たたみや食後の後片付けなどを行ってもらっている。 ・年に数回、ドライブなどの個別レクの実施で気分転換を図っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日はホーム周辺の散歩やドライブを実施。 ・地域行事の見学や家人との一時外出(外食等)を実施している。正月や盆は帰省される方もいる。	利用者の要望から、同法人の福祉車両にて利用者全員で外出するなど、日常の何気ない会話から実践につなげている。地域行事などへも積極的に参加され、家族と一緒に外出する機会もある。ホームには濡れ縁があり、天気のいい日は外の風を感じることができる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭はホームの金庫で管理している。 ・おやつやジュースなどの購入希望時は、利用者と一緒に出かけ購入する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望時には対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日掃除を行い、修繕箇所は早々に対応し、季節の花や装飾品などを飾り、居心地よく過ごせるよう努めている。(異色に注意しながら) ・冬期間は加湿空気洗浄機を使用し、乾燥防止に努めている。	ほとんどの利用者が日中、共有空間で過ごされている。光や臭い、音、温湿度などに配慮し、清潔な環境で、一人ひとりが居心地良く安心できる場所がある。夜間帯は、トイレに電気を点けて、目印や安全につなげている。2ユニット間で往来ができ、以前からの顔馴染みの利用者とは話を楽しんだり、それぞれの暮らし方に対応している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホームの場所では食堂ホールがそのような場所となっている。ソファやテレビがあり、歌番組を聞いたりして楽しんでいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた布団やタンスなどを持ち込み使用している方もいる。 ・利用者に合った寝具の準備。ポータブルトイレの準備。 ・全居室にエアコンの設置。	自宅から使い慣れた家具や生活用品を持参され、家族の写真など飾られている。一人ひとりが安心して、落ち着いて過ごせる空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各所に手すりを設置しバリアフリー化している。 ・トイレや浴室には場所を記した物をつけている。 ・立位困難者にはベッド脇にタッチアップを設置し安全確保に努めている。 ・ADLが低下しても安全な入浴が実施できるよう個浴槽を導入している。		